

2023年9月 江戸東京たてもの園

江戸東京たてもの園は、広大な都立小金井公園の中にあります。公園は「桜の季節にまた、ぜひ来たい」と思うような、立派な桜の木々が生い茂っています。近くの方は毎日のように散歩ができ、うらやましく思えました。展示室は、江戸の町、文明開化の東京、関東大震災と戦禍からの復興、1964年東京オリンピックの都市をテーマに展示されていました。屋外は、かやぶきの江戸時代中期の農家や高橋是清邸、三井八郎右衛門邸、前川國男邸などの有名な建築物、銭湯や荒物屋などノスタルジックな商店街のたてものが移築、展示され中も見学できました。2,26 事件の襲撃現場となった高橋是清邸の二階は、長さが 2 倍の大きな畳と立派な柱が印象的でした。

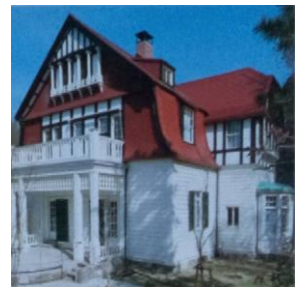


高橋是清邸、庭も建物も立派です

デ・ラランデ内のカフェはスイーツが美味しかった！

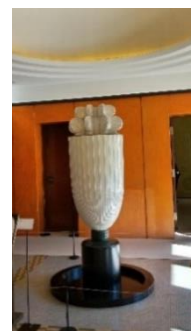
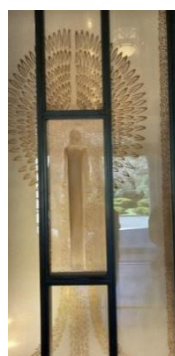


「千と千尋の神隠し」の、モデルとなった子宝の湯



10月 東京都庭園美術館 装飾の庭 朝香宮邸のアール・デコと庭園芸術 国立科学博物館付属 自然教育園散策

東京都庭園美術館の本館は、1933年に朝香宮邸として建てられ、2021年に東京都庭園美術館となりました。アール・デコ様式を採用し、アンリ・ラバンが主要部のデザインを、室内装飾のガラスやシャンゼリアはルネ・ラリックの作品が使われ、とても華やかで洗練された建物です。庭も芝庭、日本庭園と西洋庭園に分かれ、池では錦鯉が泳ぎ水面にモミジが映り素敵でした。西洋庭園ではお弁当を広げている人もいました。次に、お隣の国立科学博物館付属自然教育園に寄りました。自然教育園の敷地は中世の豪族の館から松平頼重の下屋敷、白金御用地などに変わり、一般の人が立ち入ることがなく貴重な自然が残ったそうです。立派な樹木はもちろんのこと、多くの種類の草花に名前が表示され、丁寧さに感心しました。高齢者の入園が無料で何よりです。

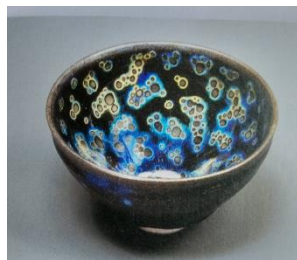


11月 静嘉堂文庫美術館 丸の内イルミネーション

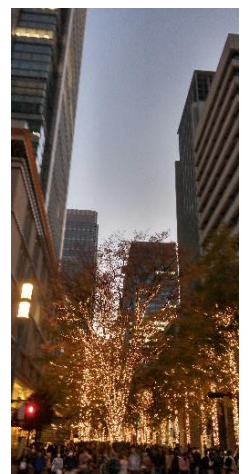
「曜変天目茶碗を見たい」という思いは、脳活プログラムを受けていた時から私たちグループの願いでした。中国の南宋時代に作られた現存する「曜変天目」茶碗は世界に3碗のみで、すべて日本にあります。京都、大阪そして静嘉堂文庫美術館です。もちろん、国宝で常設展示ではありません。丸い模様は「斑文」というそうで、「斑文」の周りの光彩も吸い込まれるような美しさです。ここの天目茶碗は「稲葉天目」ともいわれ、春日局が徳川家光より賜り、春日局の子孫である稲葉家に伝わり、三井財閥から岩崎小弥太が入手したそうです。ほかの焼き物も素敵でしたが、静嘉堂文庫美術館の入っている明治生命館が立派でした。1934年に建てられ、昭和の建物では初めて国の重要文化財になったそうです。東京駅の前でウエディングフォトを撮影しているカップルがいて、肩を出したドレスの花嫁さんは寒そうでした。(老婆心か?) 珈琲を飲みながら薄暗くなるのを待って、丸の内イルミネーションを見て帰ってきました。来年はどこのクリスマスイルミネーションを見るのかな？



現存する中で、1番美しい稲葉天目パンフレットより



東京駅の空、雲がステキ！



12月 国立科学博物館附属 自然教育園 紅葉鑑賞 年越しそば

今回は、定例の第4木曜は年末であわただしく、また紅葉鑑賞のため第1火曜日に変更です。2か月前の自然教育園が素敵でまた来てしまいました。異常気象のためか「今年の紅葉はあまりきれいではない」という意見もありますが、モミジが見頃でした。20メートルはあろうかという高い木に、赤い実がたくさんなっています。「高い木に赤い実が、珍しいね」と話していたら、野鳥撮影の常連さんが「イイキリ」と、木の名前を教えてくださいました。駅ビルのお蕎麦屋さんで、ちょっと早い？「年越しそば」をいただき帰ってきました。その日の夜、メンバーさんからイイキリ(飯桐)は別名「南天桐」ともいう旨LINEが来ました。



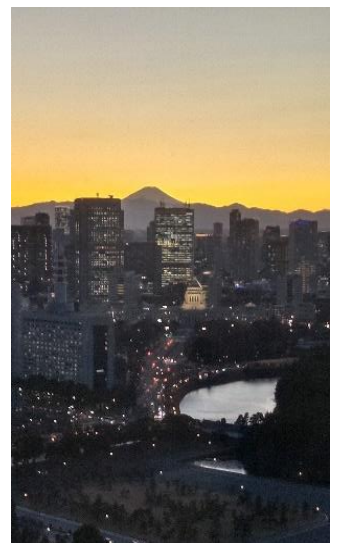
青い実がステキ！この植物の名前は？

イイキリの由来は、桐に似た大きな葉で飯を包んだからです。



2024年1月 東京ステーションギャラリー みちのく いとしい仏たち 丸ビル 35 階からの夜景見物

今月は、招待券でステーションギャラリーに来ました。青森、秋田、岩手の小さなお寺や個人が所有していた民間仏といわれる、平安時代から江戸時代の仏像を鑑賞しました。国宝や重要文化財に指定されている仏像の多くは立派で魅了されますが、ここの仏像の多くは味わいのある優しいお顔や姿など、素朴で違った魅力を感じます。また、瀬戸内寂聴さんが住職をされた天台寺の、平安時代の仏像も展示されていました。丸ビルの35階展望台から無料で景色がみられるという情報を聞き、コーヒーを飲んで夕暮れを待ちました。ふきぬけの大きな窓ガラスより、皇居の外堀から富士山、東京タワー、レインボーブリッジやビルの景色が素敵で、刻々と変わる夕景に時間を忘れて見入っていました。



2月 手塚雄二展 雲は龍に従う 日本橋三越本店 (第1会場 本館1階中央ホール、第2会場 7階 催物会場)

お目当ての龍の天井絵「^{えいがくそうりゅう}叡獄双龍」は、吹き抜け中央ホールの床に展示され6×12メートルの大きさに圧巻でした。各地を巡回した後、上野にある東叡山寛永寺根本中堂に創建400年を記念して奉納（2025年）されるそうです。「今度はこの絵を下から眺めたいね」と話し合い、意見が一致しました。第2会場の手塚雄二展は、今までイメージしていた日本画とは違う風景や人物などの作品に、思わず「凄い！」と感じました。2階のカフェで「ザッハトルテ」をいただきとても美味しく、至福の時？を過ごしました。帰りの地下通路では、1805年頃の日本橋の街並みを描いた絵巻物「熙代勝覧」の複製絵巻が展示され、こちらも鑑賞して帰ってきました。



吹き抜けの5階から撮った「叡獄双龍」左下の人物、わかりますか？

11メートルの天女像この下に天井絵が展示されていた

